



今年度の授業改善に向けた工夫			
(1) 指導内容・指導方法・学習形態の工夫		(2) 教育課程編成上の工夫	
ア 家庭学習の啓発・推進		・E S Dなど、各教科等の内容を教科横断的な視点で捉え、相互の関連を図り、カリキュラム・マネジメントを推進する。 ・P D C Aサイクルに基づいた教育活動を展開し、学校評価の活用により教育活動全体の改善・充実を図る。 ・習熟度別少人数制クラス編成による指導（数学科・英語科）の充実を図り、個に応じたきめ細かい指導を行う。 ・全学年にわたり、課題学習、補充的な学習や発展的な学習等、生徒一人一人に応じた多様な学習活動を展開する。	
イ 指導内容・教材開発		(3) 問題解決能力育成上の工夫	
・小集団等による学習場面を設定し、主体的・対話的な学びを意識した、話し合い活動や教えあい活動の実施を図る。 ・授業時数の確保（土曜授業の実施）。 ・教科の特性に応じた思考力、判断力、表現力を育むような指導方法の工夫を行う。 ・各教科での基礎的・基本的な学力の定着にむけた指導方法の工夫を行う。 （習熟度別少人数制クラス編成による指導の充実（数学・英語））。 ・朝読書、朝学習、放課後・長期休業中の補習教室、個別の学習相談、学校図書館の開放、体験学習の充実を図る。		・「学習のねらい」が明確で、わかりやすくきめ細かい教科指導の実践を心がけ、確実な基礎的・基本的な学力を習得させた上で、自らの課題発見し「探求」できるような授業展開を図る。 ・授業中の場面で、意識的に教え合いや討論、意見交換の場を設定し、ペアワークなどの協働学習を導入にしたりすることにより、思考力・判断力・表現力等を養わせ、問題解決能力育成の育成につなげる。	
ウ 指 導 方 法 ・ 学 習 形 態	習熟度別指導	(4) 校内研究・研修の工夫	
	タブレット端末（ICT機器の活用）	・令和5・6年度稲城市教育研究奨励校「授業改善を通して生徒の自ら学ぶ力を育む～考える・伝える・認め合う～」をテーマとして、授業の研究を推進する。 ・特別支援教育を推進するとともに、ユニバーサルデザインを配慮した授業改善を図り、個に応じた指導力の向上を図る。 ・スクールカウンセラーや巡回心理士等の連携により、特別支援教育の理念を踏まえた教育活動、支援体制の研究を推進する。 ・主幹教諭・主任教諭による若手教員へのOJTを組織的に実施し、教員の授業力、指導力の向上を図る。	
	板書・机の配置等	(5) 評価活動（教師による評価、生徒による評価、保護者等による評価）の工夫	
	体験学習等、その他	(6) 家庭・地域社会との連携の工夫	
・習熟度に応じたグループ編成、指導内容の工夫・改善を行う。 ・机間指導を丁寧に実施し、生徒のつまずき場面を把握し個に応じた指導を行う。 ・ペアワーク、グループワークなどの場面を積極的に授業内で設定して、生徒同士の学び合いによる授業展開を実施する。		・各教科年間指導計画・評価計画に基づき学習状況を的確に把握し、個に応じたきめ細かい指導を行い、適正な評価規準のもと指導と評価の一体化を図る。 ・生徒同士の相互評価活動を生かし、自らの学習状況を理解・把握し、適正な自己評価につなげていけるような指導を工夫する。 ・授業公開後の保護者の声や学校評価としての保護者アンケート、学校運営協議会等による外部評価を実施し、教育活動の改善に活用する。	
・本日の目標（ねらい）を必ず黒板に提示し、授業のめあてを確認させる。また、学習の流れが分かる板書などの工夫を図る。 ・ユニバーサルデザインの視点による、授業方法の工夫・改善を図る。 ・学習単元・内容に応じた学習形態の工夫を図る。		・つながり（人・自然・地域）を大切にしたE S Dを推進する。 ・学校だより・学年だより・学校ホームページ等で学校の様子を積極的に伝え、家庭・地域の理解・協力を得る。 ・授業公開、道徳授業地区公開講座、学校行事等で生徒の活動を公開し理解を深める。 ・家庭と連携し、基本的生活習慣や家庭学習習慣の形成を図る。 ・学校支援コンシェルジュや地域の方々からのいろいろな場面でのサポートを図る。	
・体験学習等、その他		・国際社会の中で、多様性を理解・尊重するとともに、体験学習・ボランティア活動、地域での交流活動等を通して、奉仕的精神に満ち実践力・行動力のある生徒の育成に努める。 ・地域の教育力の積極的な活用を図るとともに、体験的な活動を重視し探究的な活動を通して、社会の形成者としての自己の生き方について自覚を深めさせる。	